

令和4年度「臨床心理学研修講座」

研修の様子

第5回 8月26日(金)

今回のテーマは、「コロナ禍に生きる子どもたちへの支援～虐待のメカニズムを探る～」でした。

本日の研修では、虐待と新型コロナが子どもに与える影響を知ること、教員としての子どもに対するアセスメントスキルを高めることをねらいとしました。

まずは、コロナ禍が家庭に与えた影響を考えてみることにしました。

さらに、2つの事例を示し、虐待が疑われる（可能性がある）ケースはどちらかを吟味しました。

○虐待系の多動児の特徴

○虐待を受けた子の問題行動パターン（仮）

○コロナ禍において、特に学校適応に配慮を要する養育環境にある子

- ・収入と成績の関係
- ・家族構成と成績の関係

→貧困家庭ほど学校に行きたくなくなる気持ちが高まる可能性(2018 東京都の調査)

実際に、虐待があるかどうかは見た目では分からない。虐待の有無はあくまでも事実確認でしか分からない。→疑いあれば、まずは相談を…

子どもがされて、うれしいこととは…「話を聞いてくれる」こと

被虐待児に対して学校ができることは何か、子どもから虐待の相談を受けたらどう対応するか等を考えながら本日の研修を終えました。

推薦図書

- ・子どもの脳を傷つける親たち（友田 明美著）
- ・子育てで一番大切なこと（杉山 登志郎）

受講者から、受講後の感想の一部を以下に紹介します。

- コロナ禍で、かなり学校も変わったが家庭内・親子関係も変わってきているのだと分かりました。
- 大人の言動が子どもの脳内発育にとっても大きな影響を与えることを知り驚きました。
- コロナ禍によって虐待が増え、扱いにくい子が増えていることに気付きました。発達障害ではないかと思われる子も背景をよく知ること、その子に合った支援ができるようになると思いました。

